

1 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

(1) 大学としての教員養成に対する理念、設置の趣旨等

大学としての教員養成に対する理念・構想を含めながら、貴大学における教員養成に対する特色のある取り組みを含めながら記載すること。

①教員養成に対する理念・構想

本学の建学の精神である「徳と知」は、教員養成に対する大学の理念とも重なるものである。

近年、若い教員の精神力の欠如、知識力の不足などが教育現場で大きな問題となっている。これらの問題を直視し、より優れた教育職員を育成するために、本学教員養成課程では深い精神性と高い実践力を涵養することをめざしている。まず、大学の基盤をなす科目として「キリスト教学」「ノートルダム学」などを設け、これらの教育を通して、豊かで深い人間性を持った教員としての基本的資質を養成する。

知性の育成の面では、全学共通の基礎科目や教養科目に加え、各学部でさまざまな専門科目を展開している。学外での研修等を含めた多様な実践的科目により、知識を実践的に深める場も提供している。教職課程においても、教職に関する専門知識を体系的に学びつつ、徹底した授業実践や事例研究により教員としての実践力が高められるよう課程編成を行っている。これにより、人間の生き方や心のあり方について深く考える力と実践力を併せ持つ教員の養成をめざしている。

本学では上記の教育理念・構想の下、以下の点を教員養成の目標としている。

○カトリック精神及び日本の伝統を理解し、深い教養を持った教育者を養成する。

○豊かで自由な心を持ち、深い人間理解のできる教育者を養成する。

○知性と品性を備えた教育者を養成する。

○国際言語文化学部英語英文学科では、協定大学留学制度等も生かし、豊かな国際交流体験と高い英語運用能力を持った中学校・高等学校英語科教諭を養成する。

○国際言語文化学部国際日本文化学科では、多文化への眼差しを持ち、図書館情報学、情報処理、日本語教育にも知見を有する中学校・高等学校国語科教諭を養成する。

○現代人間学部生活環境学科では、生活科学の専門的知識と技術、生活福祉についての基本的考え方や素養を身につけ、人々の生活をより良くするための課題解決能力を有する中学校・高等学校家庭科教諭を養成する。

○現代人間学部こども教育学科では、心理的・福祉的な支援について理解し、実践的な能力を身につけた幼稚園・小学校教諭、特別支援学校教諭を養成する。

②教職課程の設置趣旨

教育者としての使命感、子どもの発達に関する理解、教育的愛情をもつことの大切さを理解させ、教師としての基本的資質を養いながら、広く専門的知識や教養を深め、これらに基づく実践的指導力を育成する。本学の教育課程には、国際言語文化学部（英語英文学科、国際日本文化学科）、現代人間学部（生活環境学科、こども教育学科）の2学部があり、いずれの教職課程も、旧来の教員養成プログラムにはない特性をもった、独自のカリキュラムを展開し、教育現場においてその教育力が大いに発揮でき、本学出身の教員が汎く日本の教育界に貢献することが期待される。中高専修免許課程を有する大学院人間文化研究科（応用英語専攻で英語科、人間文化専攻で国語科）においても、この点は同じである。このような趣旨から本学に教職課程を設置している。